

2023年5月18日



島内地区地域づくりセンター

# 「住民主体の地域防災」 をどう進めるか

— 今後の方向性 —

松本大学大学院 総合経営研究科 教授  
地域防災科学研究所 所長

木村 晴壽

# 1. 時間軸で考える災害対策

## ① 命を守る段階（発災時）

- ・安否確認 （隣組単位で）
- ・救助、救出 （24時間が鍵）
- ・避難 （隣組単位で）  
…… 要支援者の避難 ……

## ② 避難後の段階

- ・避難所の開設、運営  
(避難所運営委員会の問題)

- ・避難所以外への避難者の把握

- ・行政機関との連携

……救援物資の受入と分配、各種手続きへの誘導や支援、要配慮者へのケア etc.……

## 2. 災害種類で考える対策

### ① 地震等（予知できない災害）

#### A. 命を守る段階（発災時）

- ・安否確認

- ・救助、救出

- ・避難 ……要支援者の避難……

## **B. 避難後の段階**

- ・避難所の開設、運営**
- ・避難所以外への避難者の把握**
- ・行政機関との連携**
- ……救援物資の受入と分配、各種手続きへの誘導や支援、要配慮者へのケア etc.……**

## ② 風水害等（土砂災害を含む）

### A. 命を守る段階（発災前の対応可）

#### ・避難と安否確認

……発災前に要支援者の避難を……

事前の計画に沿って隣組単位or町会単位

#### ・救助、救出

【行政機関との連携】

## **B. 避難後の段階**

- **避難所の開設、運営**

- **避難所以外への避難者の把握**

- **行政機関との連携**

…… 救援物資の受入と分配、各種手続きへの誘導や支援、要配慮者へのケア etc. ……

# 時間軸と種類で考える 災害対策

## ◇地震等と風水害

- ・命を守る段階の相違

【事前の避難対応が可と不可】



# ※ “避難しない”の問題

- ① 2011(平成23)年台風15号のケース  
:::名古屋では約100万人を対象に避難勧告  
⇔ 避難所への避難約5千人  
(0.5%)
- ② 2018(平成30)年7月豪雨のケース  
:::全国で約860万人を対象に避難勧告等の避難情報  
⇔ 避難所への避難が確認されたのは4.2万人  
(0.5%)

③ 2019(令和元)年台風19号のケース  
:::全国で797万人を対象に避難勧告等の  
避難情報 ⇔ 避難所への避難が確認  
されたのは23.7万人 (3%)

④ 2019(令和元)年10月の大雨のケース  
:::約86万人を対象に避難勧告等の避難  
情報 ⇔ 避難所への避難約4,500人  
(0.5%)

## ⑤ 2021年8月の大雨（松本市のケース）

- 8/14 9:50 四賀地区の土砂災害警戒区域に**避難指示**
- 10:45 安曇、奈川地区の土砂災害警戒区域に**避難指示**
- 14:00 全市域の土砂災害警戒区域に**避難指示**、**避難所開設**  
(対象世帯24, 431……54, 926人)
- 8/15 6:30 奈良井川今村橋の水位上昇のため、笹賀地区4町会に**避難指示**

# ※ 今後の方向性

## ● 命を守る段階（発災時）

- ・ 安否確認（隣組単位で）

- ・ 救助、救出

- ・ 避難 **【要支援者の避難】**

**（隣組単位＋各種組織との連携）**

# ●避難後の段階

## ・避難所の開設、運営

(新たな避難所の確保)

## ・避難所以外への避難者の把握

## ・行政機関との連携

……救援物資の受入と分配、各種手続きへの誘導や支援、要配慮者へのケア etc.……